

小規模企業景気動向調査

[2021年12月期調査]

～売上は改善傾向も、原材料等の高騰や資金繰り等課題の多い小規模企業景況～

2022年1月31日
全国商工会連合会

<調査概要>

調査対象：全国約300商工会の経営指導員

調査時点：2021年12月末

調査方法：対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式

<産業全体> ◇…売上は改善傾向も、原材料等の高騰や資金繰り等課題の多い小規模企業景況…◇

12月期の小規模企業の業況DIは、売上額DIが大幅、それ以外が小幅な改善となった。また、全業種共通して売上額DIが一桁台となった。経済活動の活発化に伴い、売上の回復基調が鮮明となる結果になった。ただし、前年対比という調査の特性上、業況DIは、コロナ禍前の水準まで回復は見られるものの、実際には、原材料等の高騰によるコストの増加や融資据置期間終了でコロナ関連融資の返済が開始となったなどの影響で、採算・資金繰りに苦慮する事業者が増えたとのコメントが目立った。また、変異株の感染拡大の影響に注視が必要であるとの声もあった。

<製造業> ◇…食料品関連を中心に受注は好調も、採算に苦しみ利益は今一步の製造業…◇

製造業は、全DIが改善となった。特に売上額DIについては、大幅な改善となった。食料品関係は、歳末と巣ごもり需要により、売上や設備等の稼働状況は好調であるが、材料価格の上昇から、利益は不変であるとの声があった。繊維関係は、コロナの影響を受けて縫製業者の廃業が相次いだこともあり、県外からの発注が増えたが、職人不足から受注できる仕事が限定されてしまうとのコメントがあった。機械金属関連については、昨年と比較して受注の増減がない中、原材料高の影響で採算が悪化しているため、今後を不安視している事業者も多いとの声もあった。

<建設業> ◇…原材料や燃料代の高騰により、価格転嫁や資金繰りに苦しみ建設業…◇

建設業は、全DIが小幅な悪化となり、全DIが揃って悪化となったのは4カ月ぶりとなった。受注に関しては、公共需要や災害復旧工事は堅調、民間需要は低調も一部に住宅新築需要があるとの声があった。また、納入遅れが少しずつ解消されつつあり、住宅機器を使用する設備工事も稼働し始めてきている。しかし全体としては、原材料価格と燃料代の高騰が続いているため、価格転嫁や資金繰りに苦慮する事業所が多いとのコメントが目立った。また、変異株による感染拡大の影響により資材が再度入荷されず、再び事業中断を余儀なくされる事態を懸念する声も目立った。

<小売業> ◇…経済活性化と歳末需要で好調も、仕入価格高騰など不安要素が残る小売業…◇

小売業では、売上額DIが10ptの回復となったのをはじめ、業況DIは大幅、採算・資金繰りDIは小幅に改善した。衣料品関係は、経済活動の活発化と季節需要が好調であるため、一部ではコロナ禍前まで回復に進んでいる声もあるが、一方で仕入れ面で苦慮し、売上の回復とは言えない事業者もある。食料品関係はコロナウイルス感染症の拡大が一時落ち着いたこともあり、イベント等の開催もされ始めていることから、回復基調に転じるも変異株への懸念が大きい。

<サービス業> ◇…引き続き回復基調も、仕入価格高騰などで本格的な回復まで今一步のサービス業…◇

サービス業は、採算・資金繰りDIは大幅改善し、売上額・業況DIは小幅な改善となった。宿泊関連は、10月以来客足も戻っており、引続き売り上げは堅調。洗濯・理美容関連は、帰省客や行事も増えたことにより、来店客が増えてきているが、原油高の影響も継続しているため大幅な業況の改善には至っていない。飲食関連は、感染者数減少に伴い、業況は好転しているが、夜間の集客は低調であり、仕入価格高騰から、採算が悪化しているとのコメントが目立った。

業種	産業全体			製造業			建設業		
	11月	12月	前月比	11月	12月	前月比	11月	12月	前月比
売上額	▲ 11.9	▲ 6.6	5.3	▲ 10.9	▲ 3.3	7.6	▲ 8.1	▲ 9.0	▲ 0.9
採算	▲ 36.4	▲ 32.9	3.5	▲ 41.7	▲ 37.0	4.7	▲ 40.5	▲ 42.1	▲ 1.6
資金繰り	▲ 28.5	▲ 26.4	2.1	▲ 30.4	▲ 28.9	1.5	▲ 30.1	▲ 34.1	▲ 4.0
業況	▲ 25.1	▲ 21.9	3.2	▲ 25.6	▲ 22.9	2.7	▲ 25.9	▲ 27.5	▲ 1.6

業種	小売業			サービス業		
	11月	12月	前月比	11月	12月	前月比
売上額	▲ 18.5	▲ 8.5	10.0	▲ 10.2	▲ 5.6	4.6
採算	▲ 33.3	▲ 28.8	4.5	▲ 30.1	▲ 23.4	6.7
資金繰り	▲ 27.9	▲ 23.0	4.9	▲ 25.9	▲ 19.7	6.2
業況	▲ 27.6	▲ 19.9	7.7	▲ 21.0	▲ 17.1	3.9

注) DI (景気動向指数) は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。

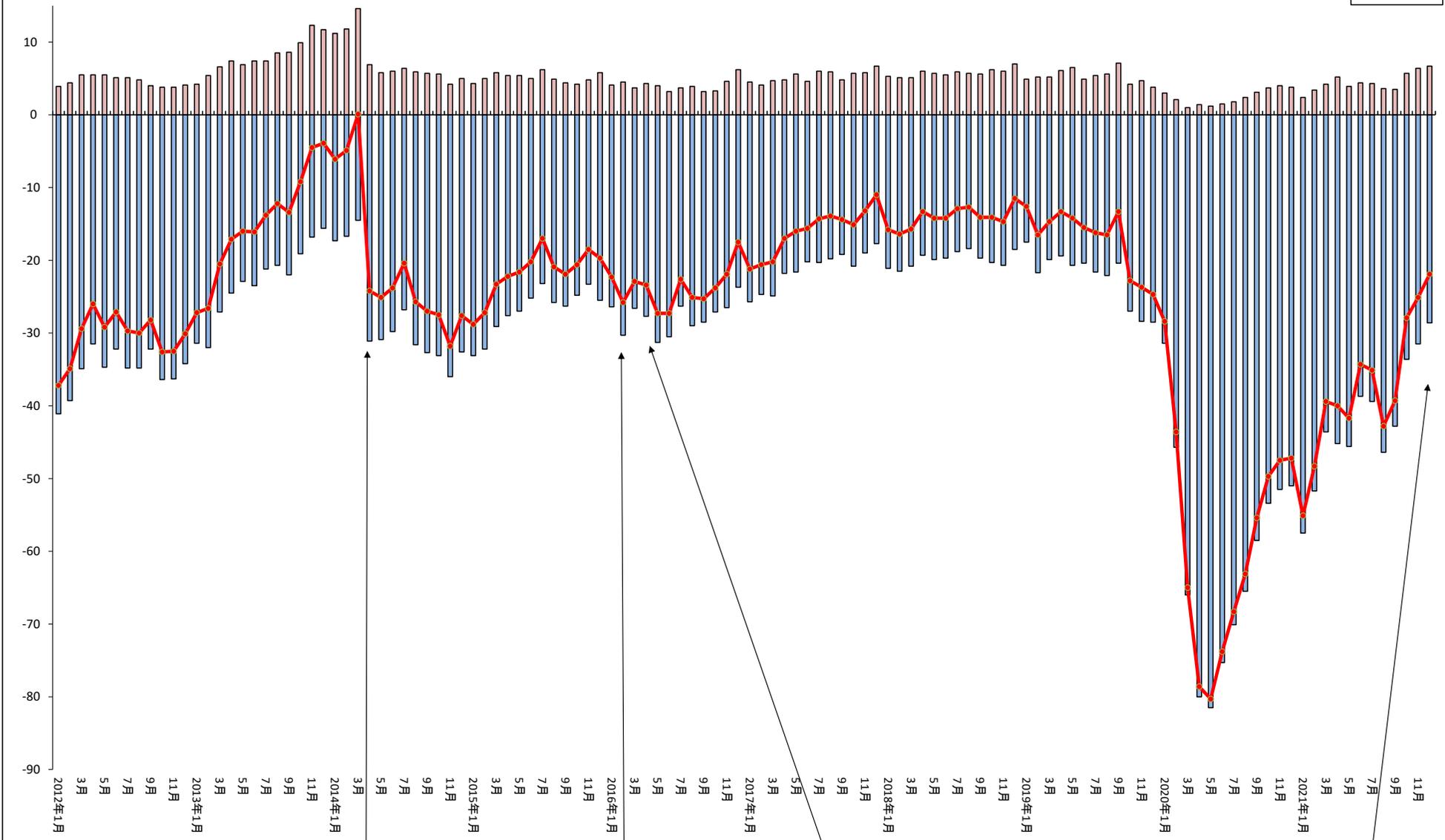
全国商工会連合会 政策推進部 事業環境課

〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-7-1 有楽町電気ビル北館19F TEL:03-6268-0085 FAX:03-6268-0997 担当:樋口

小規模企業景気動向調査(月次)

産業全体の業況…過去10年のトレンド…

■ 悪化
■ 好転
— DI



14年4月
消費税率8%に引上げ
(-24.2)

16年2月16日
日銀マイナス金利導入
(-25.8)

16年4月
熊本地震(-23.4)

21年12月
(-21.9)

小規模企業景気動向調査(12月期)における商工会経営指導員の主なコメント

*コメントについては、経営指導員回答の原文を掲載。

1. 景気全般

<改善傾向を示すコメント>

12月は全体的に旅行業や小売業等の支援策が功を奏し、売上額は増加しているとの回答が目立った。しかしながらこれらの支援策がなくなった時が心配との声もあった。

(高萩市商工会)

12月の市内の景況は、経済活動制限の全面解除を受け、対面サービス業種を中心に、小売、サービス業を中心に改善傾向にあると思われる。ただ、先行きについては、景気回復が継続していくとの見方については不透明感を持っている事業所がほとんど。製造業では自動車などで半導体を中心とした、部品不足の影響が和らいでおり、回復基調の兆しがみられた。建設業でも、資材不足で止まっていた工事が再開するなど、ゆるやかではあるが復調しつつある。ただ、オミクロン株感染が国内でも新年にかけて拡大しつつあり、今後の感染状況によっては、部材調達など、供給不足問題が再燃する懸念が否めない。小売り、サービス業でも復調傾向となった。

(川西市商工会)

12月は繁忙期であるお店が多数あり、客足の具合などに意識を向け聞き込みを行った。管内事業所は全体的に好調であった。コロナが多少収まったこと、年末需要もあり、先月対比増の事業者が多かった。回復の傾向もありながらも、一方では季節変動の関係もあり、イベント、観光の比重が高い事業者は、雇用の確保、資金繰り等まだまだ厳しい状況となっている。また、オミクロン株の感染拡大が今後懸念されるなど、まだまだ予断を許さない状況である。今後は、年明けに公募開始が予定される、事業復活支援金を活用し、事業所の経営安定化に向けて支援していきたい。管内でのクラスターが発生しない限りは当面、この流れは続く見通しあり。

(みまさか商工会)

旅行関連、食料品小売等の一部業種においては、大きく業況が回復傾向にある。一方で、新型コロナウイルスによるサプライチェーンの毀損の影響を受けやすい、建設、製造業関連業種に関しては、引き続き注視が必要。とりわけ、建設業については、100%稼働で採算が悪化している事業者も多く、受注や事業内容自体に関して検討が必要である。

(玖珠町商工会)

昨年同期に比べ感染状況が落ち着いていることから、全業種で経済活動が活発になりつつある。

(あまみ商工会)

9月30日の緊急宣言解除に伴い、景気も良くなっているように伺える。各イベントの開催、居酒屋の時間短縮の解除等で年末年始は予約で満席が入っている事業者、製造業では受注等で多忙だったという事業所の声をいただいている。今後、コロナの状況による事業所にとってもやっとなりつつある兆しが見えてきている。

(中城村商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

飲食業は、明暗が大きく食事中心の飲食店は前年並みであるがアルコール中心店は相変わらず客足が戻らない状況。一般的に原油高による灯油、ガソリン価格の上昇は全業種共通して経費増となっている。国に対してはガソリンの二重課税、上乗せ課税の是正を強力に求めて頂きたい。北海道のように移動距離の大きい地域ほど影響が大きい。

(小平町商工会)

当地域においては、一般的に資材関係の高騰が関係し、売上が減少している傾向が続いている。一方で、売上が多少ながら増加しているが、人材不足を嘆く事業者もいる。とはいえ、まだまだ新型コロナウイルス感染拡大が続いており、全国的にもまだまだ景気が安定していない中、地域においては更に不安定な経済環境の形として表れ、回復の見込が立たないのが実情である。大事な地域の事業者において事業継続のため、地域の支援機関として我々も市など自治体と連携しながら継続的に支援していきたい。

(鹿島商工会)

新型コロナウイルス新規感染者が減少した状況下において、飲食店での外食が増え、売上高はやや増加傾向にあるが、コロナ禍以前の回復傾向は見られない。オミクロン株による新規感染者の大幅増加が懸念され、サービス業全般、食料品小売以外の小売業で売上・利益の大幅減少が懸念される。

(狛江市商工会)

令和3年12月期においては、新型コロナウイルス感染症の勢いは落ち着いているが、昨年と比較して同様または悪化しており、改善には至っていない。景気全般としても現在も例年並みには戻っておらず、厳しい状況が続いている。外出を控えることに慣れてしまっている人は多く、客数は減少した状況が続く、伸び悩んでいる。補助金等でどうにか事業が継続できているという状態で不安の声も多くあった。

(あさぎり町商工会)

2. 製造業

<改善傾向を示すコメント>

繊維工業関係は、好転の兆しが見える。電子部品製造業も若干上昇傾向であった。

(よこて市商工会)

【機械金属】空気清浄機やエアコンを製造している製造業者は工場稼働率が高く忙しい状況が続いている。一方半導体の調達難が生産量に歯止めをかけていることもあり、調達の目途が立てばさらに売上を伸ばすことができる。

(茂木町商工会)

製造業全般において、比較的、受注は安定しているが、仕入単年末の需要増により取引先からの受注が増え、売上は上昇傾向にある。

(松浦市福鷹商工会)

新型コロナウイルス感染症の拡大が落ち着きを見せる中、観光などの交流人口が多くなり、食料品製造業を中心に売上が伸びている。

(あまみ商工会)

コロナ禍にはあるものの巣ごもり需要の伸びから食品需要は回復しつつあり製造業は稼働率が上昇している。

(屋久島町商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

食料品…若干落ち着いた感はあるものの、ふるさと納税返礼品の受注は年末ギリギリまでであるため、稼働状況は良好。年明け以降はネット販売や卸販売等通常のチャンネルに戻るため、先行き不透明。原材料高騰も引き続き最大の懸念事項。繊維工業…コロナ前と比べ取引業者は大きく変わったが来春までの長期受注を獲得できるなど、アフターコロナ運営においては概ね順調。従業員の高齢化や設備老朽化など懸念材料があるため、資金繰りを含めた対策を検討。機械・金属…市内業者からの受注は低迷しているがその分県外取引先からの受注増加したため売上自体に大きな変動はない。半導体関連企業は見通し良いが、それ以外の製造業は不安定で格差が出ている。

(由利本荘市商工会)

食品関連の事業者は、昨年同時期と比べると帰省客もあり年末はそれなりの売上になった。ただ、飲食業は変わらず低調で、外食の消費冷え込みが顕著なのかと推測された。小売に関してはますますの売上になっている。先月までの売上減少から、多少の上昇に転換されたため仕入れ額が上がり、収入が追いつくまで支払いが苦しくなることが予想される。繊維工業関連の事業者は、規制緩和になったものの、上昇傾向にはまだ転じていない。機械金属関連の事業者は、材料の仕入れ単価が2倍になった材種もある。価格交渉も進んでいるが、材料の値上げが止まらない。

(かづの商工会)

食料品製造は、原材料の高騰により苦慮しており、製品価格の値上げができない事業所もある。機械金属製造は、半導体不足が続き、またコロナの関係で海外からの他の部品供給ができない事業所もあり、受注はあるものの製造できない事業所が多い。

(大井川商工会)

食品製造業は、巣ごもり需要もあり売上高は増加傾向にあるが、材料単価の上昇が続いており利益においては不変である。年末帰省等による需要増が期待されたが、オミクロン株等の発生から自粛される方も多く、悪化の一途である。機械金属製造業は、自動車メーカーの生産はストップしている状態である事に加え、原材料仕入れ単価の上昇、電気自動車への移行等今後も厳しい状況は継続するものと思われる。

(呉広域商工会)

3. 建設業

<改善傾向を示すコメント>

建築資材の高騰、原油高による経費増はあるものの住宅新築は町助成金の駆け込み申込み申込みも有り受注増。土木は前半少雪により前年源となったが後半の大雪により前年並み。ただし、原油高による軽油価格上昇が採算を悪化させている。

(小平町商工会)

建設業では、新型コロナウイルスの感染拡大で遅れていた工事が再び動き始めるなど、好影響が見られはじめた。半導体を使用する住宅機器なども動き出しており、今後1月以降の受注高の増加に期待を寄せている。原材料価格と燃料コスト高騰が継続しており、販売への転嫁をしないと利益率の低下を招くことから不安材料となっている。

(川西市商工会)

建設業関連の事業者は、ウッドショックの影響から木材価格や鉄材などの仕入価格は上昇しているものの、売上額が増加傾向にあり採算は好転傾向にある。また全体的に繁忙傾向にある中で人員確保には苦慮しており、従業員の待遇改善や取引先との連携、生産性向上などを模索し、効率的な事業運営の検討・実施が必要な状況。

(米子日吉津商工会)

資材高騰は見られるが受注量も増えているため影響はあまり見られず例年並み若しくは例年以上の企業が多くなっている

(かのや市商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

コロナ禍の現在、建設業界は大きな変革を迫られており、これまで行っていた業務の方法ではなく、新しい方法として、例えばITやデジタルの活用を今後は積極的に導入していくことが求められる。

(青森市浪岡商工会)

建設資材の仕入れが難しくなっており、予定通りに工事が進まなくなっている。また、建設資材が高騰していることから、工事原価が上昇し、利益幅が縮小している。

(南陽市商工会)

年度末に向けた公共工事の発注や民間工事依頼などが増えている。一方で新型コロナウイルスの影響もあり、資材の価格高騰や不足の影響で先が見通せず採算の悪化や工期の遅れなどに繋がっている。

(栄町商工会)

一時の住宅需要も落ち着きを見せ、売上事態は平年並みに戻っている。しかしながら資材の右肩上がりでの価格高騰が深刻化しており、2カ月前に出した見積りがその値段では対応できないような状況となっている。事業復活支援金に期待する声は多く、早めの支援が期待されている。

(中央市商工会)

材料費がこの半年で2割上昇してしまい、利益率を圧迫している。ウッドショック後の受注減少の噂があったが、7月以降は昨年より受注があった、しかし材料費の高騰が不安であるという声や、設備機器(トイレ、エコキュートなど)がコロナで入ってこなくて工事が出来なくて大変である。といった不安な声があった。来期の工事の見通しが夏ごろまで入っているとの工務店の声もあった。

(長浜市商工会)

土木工事に関して、災害特需により公共工事も多く安定している。建築工事に関しては大規模な工事は少ないが小規模の改修工事等の引合いが多い。木材、鋼材、燃料等の高騰により仕入れ価格は上昇しているが価格転嫁をおこなっており利益率の変動は少ない。

(日田地区商工会 大山支所)

ウッドショックの影響で価格が上昇したことと、納品が遅れている状況が続いている。価格が値上がり買い控えが生じている。そのため、資金繰りが悪化している。

(玉名市商工会 天水支所)

4. 小売業

<改善傾向を示すコメント>

小売業全般では、コロナウイルスによる感染の落ち着きがみられ、昨年に比べ消費が活発になっており、売上増となっている。

(枝幸町商工会)

食料品小売業について、年末年始の需要に伴い、売り上げは増加傾向にある。今後のオミクロン株の動向に大きく左右されるため、大規模な仕入れはできないものの、今後の需要拡大に備えて市場回復を望む。

(畑野商工会)

衣料品小売りは、降雪の影響もあり、防寒具を中心に好調な動きを見せるも、昨年並みの売上となっており、コロナ前の売上には一息足りない。食料品小売は、年末年始の巣ごもり需要もあり昨年同月比で数パーセントの微増。コロナ禍に加え、自然災害に対する警戒から売上は上がっている。家電小売り業は、昨年同月比でみれば1割程度の減が続いている。半導体不足の影響もあり、一部商品は入荷待ち状態。

(富山市八尾山田商工会)

衣料品:11月に比べて微増傾向である。コロナ禍の影響も薄れ始め、顧客からの作業復等の注文が入り売上増へとつながった、今後は、コロナの影響も少しは弱まると見ていたが、またコロナ禍拡大の懸念があり、展示会の開催も未定が続く中、戦々恐々としている。食料品:新型コロナウイルス感染症収束の兆しが見えた影響もあってか、人が集まった憩親会などが開催されるようになったため、当社の売上も増加傾向である。耐久消費財:11月と比べて大きな変化はない

(みまさか商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

衣料品…前年同月と比べ売上はあまり変わっていない。来年度の学生服関連の注文が始まってくるので売上の確保に努めていきたい。食料品…前年同月と比較すると、地元の宴会等開催されていることから、注文が増えてきている。一方で肉や野菜などの仕入単価が高騰してきており、懸念材料である。耐久消費財…巣ごもり・リモートワーク需要により全般的に品薄状態が続く、タイムリーに商品が提供できず機会ロスが発生。これについてはメーカー直販も同様の傾向にあるようで、コロナもあり暫くは継続するのではと懸念。

(由利本荘市商工会)

【衣料品】地域の人口減少に伴う市場規模縮小により売上額は減少。一方仕入コストは上昇しており業績に響いている【食料品】前年と比較して売上額は増加しているが仕入単価も上昇しているため採算ベースでは悪化。前年にはなかった年末の消費増加が下支えとなっている。

(茂木町商工会)

小売業とりわけ食料品小売においては新型コロナウイルス新規感染者が減少局面となっているにも関わらず、巣籠り需要が依然として高く、売上高はやや増加している。衣料品小売においては新型コロナウイルス新規感染者が減少し、買い物しやすい状況となったため、売上高はやや増加している。

(狛江市商工会)

衣料品小売業関連の事業者は、コロナの状況が昨年同月と状況が変わらないため、依然低迷している。食料品小売業関連の事業者は、大手食品メーカー商品の商品価格値上により、販売価格も値上げせざるを得ない状況である。耐久消費財は買い控えが顕著であり、売上減少となっている。

(能登町商工会)

原料価格の高騰で仕入単価がアップ、何とか上代を上げて対応できる見込み。学生服は少子化の影響が年々深刻化している。・少しずつ回復の兆しが見えている。融資据置期間の終了が近くなり、返済資金の準備が必要となってきている。・注文した商品が、ベトナムなどの海外からの輸入品であるため、入荷遅れが発生している。通常は発注後2日程度で入荷するところ、2ヶ月余りかかっており、売上が立たず資金繰りに苦慮している。

(中部商工会産業支援センター)

大型店へ流れた顧客は戻らず売上減少に歯止めがかからない。加えて仕入単価の上昇や光熱費高騰により収益を圧迫している。また一般客のオミクロン株に対する警戒感が強まっており景況感は悪化している。

(作州津山商工会)

5. サービス業

<改善傾向を示すコメント>

洗濯業からは原材料の高騰で採算ベースはやや悪化しているが年末に外出する機会が増えたこともあってクリーニングの需要が伸び、売上額は増加したとのコメントがあった。

(高萩市商工会)

旅館業は県民割などあり、状況はよくなってきている。ただし、仕入価格の高騰により採算は変わらず。業界としても徐々に回復傾向であるが、コロナウィルス感染者数に非常に左右される。洗濯業は11月同様ホテルのリネン関係の仕事増により売上増となっているが、仕入金額も高騰しており採算は変わらず。今後の見通しは、不透明との事。理美容業は売上は少しずつ上がってきているが、まだ従来通りまでは回復していない。今後の懸念事項としては、シャンプーなどの値上げの要請がきており、資金繰り悪化につながる可能性あり。

(小矢部市商工会 津沢支所)

コロナの影響が落ち着いたことで観光客等の動きも良くなり、旅館業においてはコロナ前と比べ8割ほどまで戻ってきている模様。12月は年末年始の予約も満室に近い状況で回復傾向に入ってきていたものの、オミクロン株の影響で1月はキャンセルが相次いでいる模様である。

(嬉野市商工会)

理美容業では結婚式や外出ニーズの増加で年配客の客足も戻りつつある。従業員の雇用により事業拡大を検討している方もおり、コロナの影響を受けつつも個室対応による需要の掘り起こしや新サービス開始などで売り上げを維持できている美容室もある。

(神崎市商工会)

旅館・宿泊関連業に関しては、大分県の「新しいおおいた旅割」の再開等により、前年同月と比較すると大幅に業況は改善している。洗濯・理美容業に関しても、人流増による影響はポジティブではあるが、大幅に業況が改善しているとはまだ言えない。飲食業に関しては、年末の忘年会などの復活により、業況は改善しているものの、自粛傾向については完全に解消したとまではいえず、官公庁等をターゲットとしている店舗にとっては、引き続き業況を注視している段階。

(玖珠町商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

旅館関連の事業者は、感染状況が落ち着いたため、忘年会の需要が昨年比で増加した。また、家族が帰省するご家庭が多く、年末のオードブルの需要も増加した。洗濯関連の事業者は、感染状況も落ち着いたため、ホテルでの結婚式もポツポツ出てきたようであるが、まだまだ親族内での宴といった形なので、業界的には依然として厳しい。理美容関連の事業者は、帰省客や行事も増えてきているが、雪や寒さの影響で出歩く年配の人が少ない印象で、売上の獲得には繋がっていない。1月以降、成人式や年祝いなどの行事もあり、予約もいただいているが、どの程度の規模で行われるかまたは開催されるかに不安がある。

(かづの商工会)

緊急事態宣言の解除で宿泊需要が戻りつつある。GoTo事業の再開予定がさらなる明るい材料であるが、オミクロン型の感染状況が不安要因として懸念されている。

(寺泊町商工会)

全体的にはコロナ影響はそれほど深刻な状況ではなく、売上増加が見え始めている。しかし、仕入単価・光熱費等が上昇するため売上が伸びても経費が増えて採算が悪い状況。そのため資金繰りが苦しく売上増えてもお金が増えた実感がわからない。また、コロナ感染者が増えているため売上減少が懸念している。

(北杜市商工会)

宿泊業は客足は少しずつ回復傾向にあるが仕入価格、燃料の高騰で採算は厳しく、第6派による影響が不安である。また、宿泊業が多く点在している場所が山のため、雪など気象状況の影響も大きい。洗濯業も燃料の高騰等で採算は悪化傾向。理美容業も客足は回復しているが、仕入単価も同様に上昇しており、今後心配である。

(養老町商工会)

【旅館】前年比で売上・仕入共に増加している。ビジネス利用が多いホテルでは客足は戻りつつあるものの全体として需要は停滞気味である。【洗濯】町内クリーニング店が廃業したことにより町中にクリーニング店が1点もなくなった。消費者の需要は少なからずあるため事業承継を含めた担い手確保が急務である。

(茂木町商工会)

宿泊業は新型コロナの影響をすぐに受ける業種であり、前半は好調であったが、後半には新型コロナのオミクロン株流行の影響により、当地では感染者は発生していないが、宿泊予約や宴会の予約のキャンセルが出だした。

(志布志市商工会)